

家計簿活動40周年記念

家計簿交流会が開催されました！

1971年、生協家計簿が誕生し、1972年「神奈川県連家計簿委員会」として家計簿活動が始まりました。そして40年、提出された家計簿は個々の家計の見直しや社会に向けて役立ってきました。古くから家計簿をつけている人・今年からモニターに登録した人など、参加者55名が家計簿を基にいろいろな話に花が咲き、楽しい交流会になりました。

ご紹介します。

生協家計簿を作った中村喜美子さんです。家計簿作成の苦勞・家計簿活動の歴史・生協の社会的活動などお話しいただきました。【家計簿の3本柱】

1.自分の暮らしを見つめる。

2.生協の運営に携わる。

3.社会的に見る目を養い、発言をする。

この3本の柱をテーマに生協家計簿は作られたそうです。費目や書き方など、今の家計簿と殆ど同じで、40年前の家計簿作りの苦勞を知り、いまま尚、使われている歴史的な家計簿を誇りに思いました。また「12ヶ月の家計のうち、1ヶ月分は税金、1ヶ月分は社会保障にと、実質10ヶ月分で生活をしていたことを家計簿から知り、社会へ発信し、減税への活動に結びついた。」というお話はとても印象深く残っています。



楽しい交流会の「声」あれこれ。

- ・家計簿をつけているとお菓子などの買いすぎがわかり、健康管理に役立つ。
- ・つける事で社会の流れがわかる。
- ・家を購入の時のやりくりで家計簿をつける事にハマってしまった。
- ・1ヶ月家計簿をつけると1年間つけられ ずっと続けてつけられる。
- ・つける。計算をする。家計簿はボケ防止。
- ・電子マネーはどうつける？(A)使用した時につけます。
- ・ポイントを使ったときは？(A)その他の収入か引いた金額を記入。どちらでもOK。



参加者「アンケート」から。

参加者の殆どの方が満足との回答でした。「40年の活動を知り、すばらしいと思いました。」「いろいろな年代の方と家計簿のお話が出来て、楽しかった。」「軽食のお昼が美味しかった。」「確定申告の資料や社会とのつながりになる家計簿の大切さを教えていただきました。」「つけ方の不明点が解り、続けてみようと思いました。」と嬉しい感想を寄せてくださいました。

これからも家計簿を基に、活動が皆さんの家計のお役に立てるよう頑張っていきたいと思います。たくさんのご参加、有り難うございました。(家計簿・暮らし調査研究会メンバー一同より)